第8回　「全国主要空港における大規模自然災害対策に関する検討委員会」
議事概要

【空港BCPに関するヒアリング（羽田空港、成田空港、関西国際空港）】

〇台風のような発生が予測できる災害への事前の対応も充実させるべき。また、火山灰対策についても考慮すべき。

〇首都圏における羽田空港と成田空港との連携等、近隣の空港との連携も検討すべき。

〇海外からの支援等も考慮した救援物資の受入体制について検討すべき。

〇BCPの策定にあたっては、当該空港で実際に作業にあたる人員やその能力をきめ細かく把握しておくことが重要。

〇海外からの旅客の実際の動きをシミュレーションするなどにより、各機関への情報伝達や連携を強化すべき。

〇昨年の広島における豪雨災害時の好事例を踏まえ、強靭な交通マネジメント体制を確立することが必要。例えば、災害時に鉄道が機能しないことを前提とすると、空港外も含めて道路で発生する大渋滞をいかに処理するかも重要。

【最終とりまとめについて】

〇多言語による情報発信は重要だが、非常時にはかえって情報が伝わりづらくなることがあるため、状況や伝達手段を考慮し、最低限の表現でスピーディに情報を発信することも必要。

〇最終とりまとめが幅広く読まれるよう、インパクトのあるタイトルが必要。

〇航空ネットワークについては、国内に目が行きがちであるが、国際化の進展を踏まえ、国際航空ネットワークも意識すべき。

〇関係者が危機意識を共有することが当該とりまとめの基本。今般の災害による経験を資産として他空港と共有し、A2－BCP策定の原動力とすべき。

【その他】

〇最終とりまとめについては、委員から頂いた意見を踏まえて修正した上で公表。